

巻頭言集

今、みなさんに伝えたい事

2021



学年通信とは

吉祥では、学年通信を学年ごとに発行しています。

発行時期は、年度始めや終わり、長期休暇に入る前、行事の前後などさまざまです。学年通信では、生徒達の学校生活における活躍の様子、写真や感想、学級日誌の生徒コメント、またその時々に必要な情報を提供しています。また、学年通信の巻頭言では、学年主任がそれぞれの時期に、それぞれの学年の生徒達へのメッセージを載せています。

この巻頭言集は、2017年度から2020年度の学年通信の中から、巻頭言を一部を抜粋して再編集したものです。

Spring



2018年4月

吉祥へようこそ
Welcome to Kichijo!

中1学年主任 佐藤 映子

エントランス前の大きな櫨の若葉が新入生の皆さんを毎朝爽やかに迎えてくれる季節となりました。入学して早二週間、新入生の皆さんも少しずつ吉祥への登校に慣れてきた頃かと思えます。

今週行われた初めての学年行事、富士吉田キャンパス・オリエンテーションはいかがでしたか。担任の先生やクラスメイトとの距離が少しでも以前より近いものになっていれば大成功です。大成功の裏には、班の仲間と協力しあったり、楽しい時間があつたはず。クラスや学校生活の新しいスタートの時期には、このように一人一人が積極的に関わろうという姿勢が特に大切です。ぜひこれからもその姿勢を持ち続けてください。一方で、まだこれからの学校生活に不安を抱えている人もいますかと思えます。大丈夫です。皆さんはまだ吉祥生として始まったばかり。皆さん自身一人一人が大切な吉祥生であるということに忘れずに、焦ることなく、周りの人たちと時間を共有していきましょう。



2017年
4月

さあ、 中学二年生の 幕開けです

中2学年主任 山田 成香



進級おめでとうございます。皆さんと出会ってから季節が一巡しました。真新しい制服に身を包み、緊張していた姿が昨日のように思われます。新入生歓迎会に向けて練習に励む姿を見ると、一年で経験した楽しいことや苦しいことすべてが皆さんを一回り大きく成長させたように感じます。

この一年は、新たに会った仲間たちと、たくさんお腹を抱えて笑ってください。喧嘩もしてください。そして感動したり悔しがったりしながら、自分の成長を阻むつまらない見栄をかなぐり捨て、自分をさらけ出し、喜怒哀楽を友達と共有してください。その一つひとつを通して、かけがえのない絆が育っていきます。もう一つ、「失敗は若者の勲章」という言葉も心に焼きつけておきましょう。そうすればここ一番で勇気が湧いてきます。何があっても大丈夫です。私たちがついていることを忘れないでください。そして友達の個性や自分と異なる価値観を排除せずに、必要な話し合いを重ねて互いに尊重してください。これらの過程のすべてが社会の多様性を理解して受け入れていく心の柔軟性を育てていきます。

十三、十四歳という年齢は、周囲の忠告が苦々しく思え悩みが多くなる年頃ですが、大人から見ると中学生という存在は、そこにいるだけで周囲を明るく照らしてくれる太陽のような存在です。大人は中学生が秘めている無限の可能性がまぶしく見えますし、また将来を託したいと考えているものです。

さあ、いよいよ中学二年生の幕開けです。この一年は新5号館の建設があり不便になると思いますが、新しいカフェテリアや教室を目にしたとき、きっと歓声があがることでしょう。新5号館の誕生を楽しみにしましょうね。

2019年4月

高三に なりました

高3学年主任 山根 晶子



新元号発表の日、私は職員室で菅官房長官が額縁を持って現れるのを待っていました。大きな変化を迎えて日本中がお祭りムードになっていましたね。そして心躍る新学期をスタートさせたわけですが、皆さんの様子を見ると、わりと落ち着いて学校生活を送っているようで頼もしい限りです。

進級してみてわかったと思いますが、高3になったからといって何かが劇的に変わるわけではありません。教室と、クラスのメンバーと、担任が変わるぐらいのものです。受験生だからといって特別扱いされるわけでもありませんし、無理して急にあれこれやろうとする必要もありません。とはいえ受験生になったので、やっぱり受験の話の話を少し。

受験はよく山登りに例えられます。だいたい前から登り始めている大多数の人は、今まで通り地道にコツコツと登っていきましょう。まだ登り始めている人は、出遅れた分をどう取り戻すか戦略を立てなければいけません。最短コースを一気に駆け上ろうと考えている人は、息切れしないだけの体力(学力)が

あるかどうか見極めてください。なるべく傾斜の緩いところを選んで登るつもりの方は、ゴールまでの道のりとペース配分をしっかりと計算してください。途中でコース変更をする人や、登る山(進路)を変える人もいるかもしれません。誰かの助け無しには登れない人もいるでしょう。いずれにせよ、山登りで一番頼りになるのは一緒に登る仲間です。林間学校の登山で実証済みですね。みんなで励まし合い、助け合いながら、ぜひ、自分にとっての最高峰を目指してください。ちなみに私が20年ほど前に林間学校で富士山に登ったとき、あまりにも登るのが遅すぎて置いていかれ、やっと頂上についたときには生徒の皆さんはとっくに下山していたというお粗末な経験があります。ただこのとき見た日本で一番高いところからの景色は、登った人しか見ることができない素晴らしいものでした。重力に逆らうのは大変ですが、苦労してでも登る価値はあります。本当の登山ではお役に立てませんが、受験に関しては最大限のサポートをし、皆さんが山頂からの景色を楽しめる日が来るよう応援していきますね。

【保護者の皆様へ】

4月8日の中学入学式、入場してくる中1と5年前の中1がオーバーラップして、少し視界がぼやけました。吉祥で過ごす最後の一年が、お嬢様方にとってかけがえのない一年となりますよう支えていく所存です。受験生であっても気負わず甘えず、粛々と学校生活を送れるよう、身だしなみや清掃、遅刻の指導などもこれまで通りに行ってまいりますので、どうぞご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



2019年5月

自分の魂と向き合う

中3学年主任 高野 弘

月日がたつのは速いもので、皆さんが吉祥女子中学に入学してから、はや2年以上がたちました。今では、皆さんは中学の最高学年です。

4月8日の入学式では、皆さんの代表としてSさんに「歓迎のことば」を述べてもらいました。その結びの部分でSさんは、「ようこそ吉祥女子中学校へ。ここは皆さんのための場所です。私たち在校生は皆さんを心から歓迎します。皆さんとかけがえのない時間を共有できることを嬉しく思います」と入学生たちに語りかけていました。とても素晴らしい言葉です。不安や希望がない交ぜになっている新入生の気持ちに、しっかりと寄りそっていました。皆さんには、ぜひ新入生を歓迎している姿勢を常に示してほしいと思います。そのため、まず自分から新入生にあいさつしてください。上級生になると、下級生が先にあいさつしてくるのを待ってしまう傾向があるようですが、それは間違いです。なぜなら、あいさつの価値はされる側にあるのではなく、する側にあるからです。先輩方や先生方・保護者、同級生だけでなく、下級生に対しても、分け隔てなくあいさつできるようになりましょう。

さて、今回の学年通信からは新しいコーナーとして、「みんなのフォーラム」を始めました。初回のテーマは「読書のすすめ」です。そこで、ぼくも少し読書について語ってみたいと思います。

人間の言語活動の中でも、聞く・話すといった、いわゆるオーラル・コミュニケーションには相手が必要です。相手の感情や表情を読みながら、その場その場で言葉を選び、身振り手振りを交えて適切に対応することが求められます。一方、読む・書くといった、いわゆるリテラシー（読み書き能力）に関わる行為は、本質的に孤独な作業です。

読書は著者との対話とも捉えられるのですが、いにしえの作家たちはその著作に対するぼくの問いに答えてはくれません。現代の作家も同じですよ。たとえば人気作家の村上春樹さんに、最新刊の『騎士団長殺し』について、「スバル・フォレストの男」のエピソードはどんな意味なのかとメールで尋ねても、きっと返信は来ないと思います。作家が書いた文章から何を読み取るかは、結局自分しだいです。読書はどこか「自分の魂に向き合う作業」に似ています。

書くことも、同じです。どんな簡単な出来事でも、いざ書くとなると思いのほか難しいものです。書くことを通じて、自分

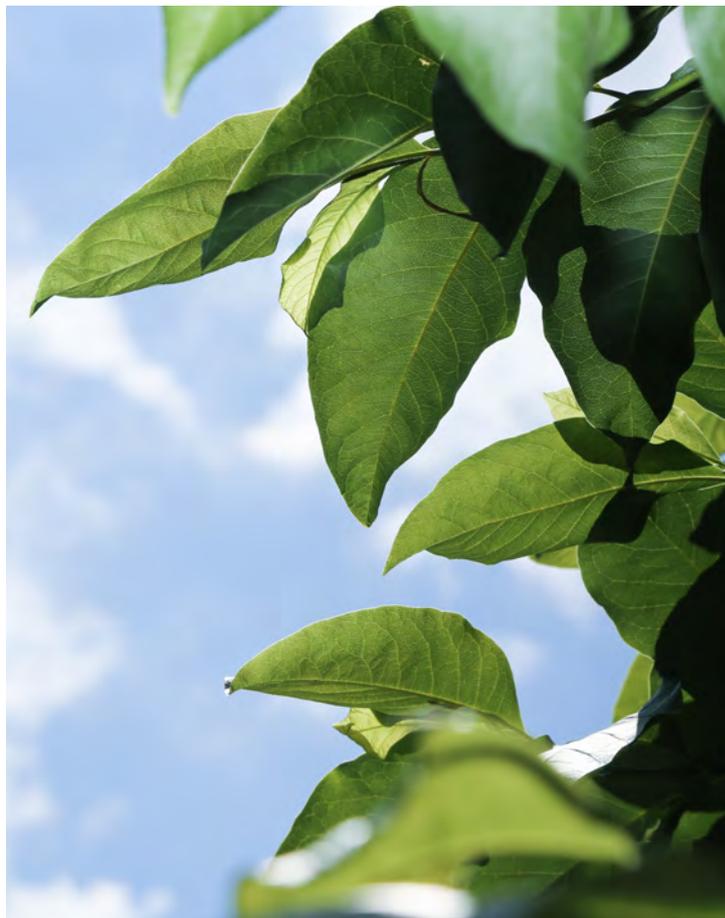
の知性のあり方が思い知らされます。やっかいなことに、デジタル化した現代の叙述活動は、どうしても他者の評価と一体化しています。ぼくらは毎日の日記でさえ他人に公開し、フォロワー数を増やしたり、「いいね!」の数を増やそうと躍起になります。

しかし、書く行為は、本来自己完結でいいのではないかと思います。いにしえの作家たちの著作の中には、公開を前提とせず、自らのために文をしたためたものが多いようです。その代表例が、古代ローマ帝国の皇帝マルクス・アウレリウスが書いた『自省録』です。彼は自分自身に向けて、自らの生き方を戒める短文を数多く残しています。たとえば、以下のような文です（文中の「君」は、おそらく自分のことです）。

せいぜい自分に恥をかかせたらいいだろう。恥をかかせたらいいだろう、私の魂よ。自分を大事にする時などもうないのだ。めいめいの一生は短い。君の人生はもうほとんど終りに近づいているのに、君は自己にたいして尊敬をほらわず、君の幸福を他人の魂の中におくようなことをしているのだ。（マルクス・アウレリウス著、神谷美恵子訳『自省録』岩波文庫より）

自分の魂と向き合う作家と、それを読むことを通じて自分の魂と向き合う読者がいて読書が成り立ちます。読書を通じてそれぞれが自分に向き合い、孤独を楽しみ、自己を探求することで、他者に惑わされず、自分を尊敬する道にいたります。

自分の進路は、自分自身を掘り起こすことでしか見つかりません。皆さんも、読書などを通じて自らの進むべき道を見つけ、それに情熱を注ぎ込んでみてください。



Summer



小雨が降り続く梅雨寒の中、7月11日から3日間、球技大会が開催されました。上級生を相手にひるむことなく果敢に反撃する姿や、高い壁に阻まれて涙を流す姿、大会運営に尽力した体育部員と運動クラブ員たち、たくさんの青春がひしめき合う試合会場は、一足先に梅雨明けしたかのような熱気に包まれていました。特に失敗してへこむ仲間を励まし、互いを思いやって戦い、チーム力を高めていく様に感動しました。今年もたくさんの勇姿を間近で応援できたことに幸せを感じます。

今年から iPad 導入や企業インターワークへの取り組みが新たに加わりました。16日のプレゼンテーションを見てくださった3名の企業の方は、ホームページの企業理念をよく読みこんで分析していること、年代別のアンケートの取り方、その考察から提案までしっかりしていることに驚かされていました。アンケートに協力して下さったたくさんの方々に、紙面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。皆さんも短時間の準備は慌ただしく大変だったでしょう。これからもチームで連携をとってこの取り組みを深めていってほしいと思います。

さて、大学入試のしくみの説明を皮切りに、卒業生講演会、芸術系及び学部学科レポートの説明等、進路行事が続きました。じわりじわりと広がる世界に比例して、文理芸系の選択の迷いも高まったことでしょう。そのような状況の中で4名の卒業生が講演会で話した内容はどれも心強く、今までの固定観念を緩めてくれたように思います。そんな彼女たちの共通点は、自分の人生や仕事に誇りをもっていること。その誇りの原動力になっているのは、一心不乱に取り組んだ経験があることです。辛い時期を通り過ぎると不思議なくらい世界が広がっているものです。何事もすぐに結果を求めず継続してください。

私自身は、「私立でどうせ学費がかかるなら好きなことした

2019年7月

視野を 広げよう

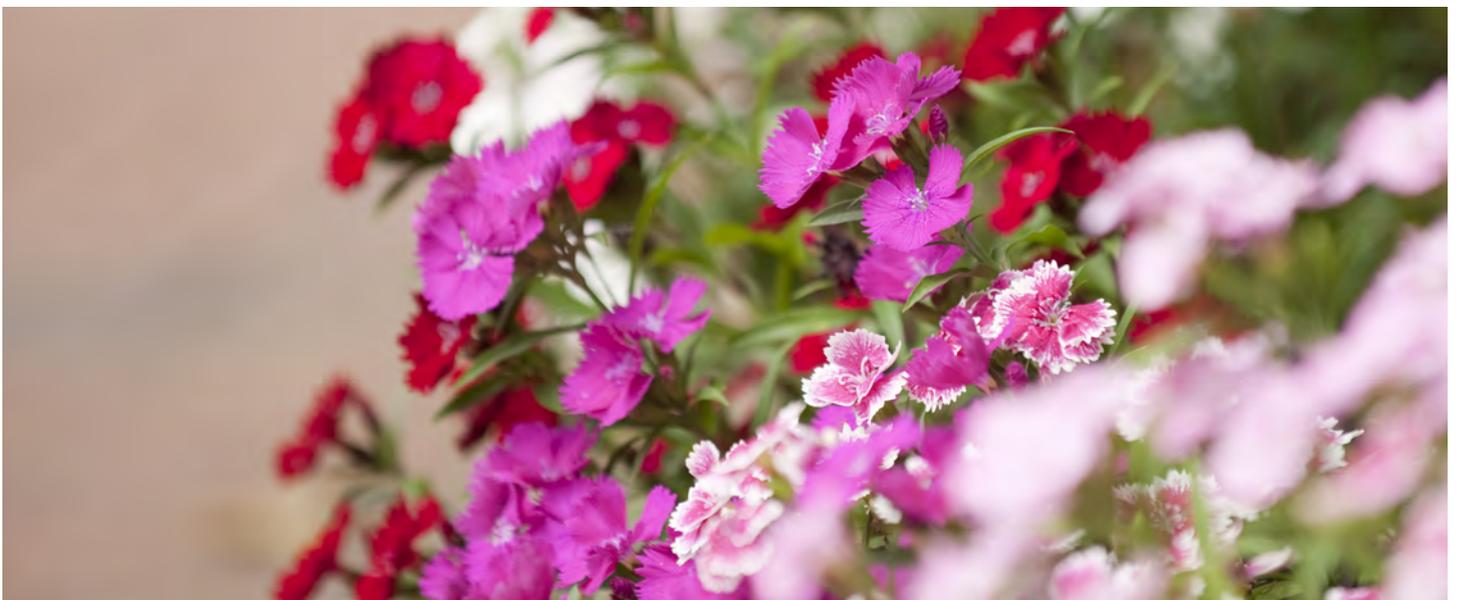
高1 学年主任 山田 成香



ら」と、娘に言い放った肝っ玉母さんに脱帽でした。こんなパンチの利いた心強い一言を投げられたら、破竹の勢いでどこまでも伸びていけそうです。娘は幸せ者ですね。

今年の夏休みは、校内の活動以外にも大学のオープンキャンパス、オーストラリアセミナー、外部団体の語学研修等、盛りだくさんのようです。特に海外研修はホームステイ、語学研修の枠に留まらず、社会問題や人権問題を学ぶ等のテーマをもって滞在する人も出てきました。まとまった時間があるこの時期だからこそ広い世界を体験して、2学期には仲間にもたくさん話を聞かせてください。8月31日にはさらに大きく成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。くれぐれも iPad にスマートフォンという便利な道具に使われて、大切な時間をして自分の将来を棒にふるないようにしてください。

最後に、1年留学に出発する皆さん、身体に気をつけて新しい挑戦を楽しんでください。合言葉は「せっかくだから！」ですね。残り多き一年になるよう祈っています。いってらっしゃい!





2020年8月

Your Action, Our Future に想う

高2学年主任 西塚純一郎

「あの一、“Your Action, Our Future”というのはどうでしょうか」

6月10日。各クラスの学級委員が決まった翌日は自宅学習日であったが、夕方からオンライン学級委員会が開催されていた。議題は「学年目標の設定」であり、各クラスの学級委員は「高校2年生として大切にしたいこと」というテーマでそれぞれの思いを話していた。学級委員一人ひとりの意識はとて高く、多くの素晴らしい言葉が出てきていた。会も終盤に近付き、これらをまとめるいいフレーズはないか、そのときに学級委員の一人から出された言葉に僕は唸った。このフレーズを導き出す高い感性と知性を持ち合わせた学級委員のみんなに、この学年の今後の可能性を感じずにはいられなかった。

もう一つ、僕が嬉しかったのは、6月12日の学年集会で話す予定であった3つのスローガンが、このフレーズに集約され

ることだった。Respect：多様な価値観を尊重し、周囲から尊敬される人物であってほしい。Enjoy：1度しかない高校2年生という今を、存分にたのしんでほしい。Challenge：できなくなったことに囚われず、できることは何かを考えチャレンジしてほしい。短い言葉でまとめてしまうと陳腐に見えるかもしれないが、あの学年集会の20分で僕が君たちに伝えたかったことは、すべて”Your Action, Our Future”に繋がっている。

あれからおおよそ2か月が過ぎようとしている。僕から見て、君たちの多くが高2としての生活に前向きに、そして真剣に取り組んでいると思う。その姿勢は君たちの成長の証であり、とても嬉しく、そしてとても頼もしく思っている。

いつもと違う1学期が終わり、いつもと違う2学期がすぐに始まる。しかし、いつもと違って、吉祥祭も、リモート体育祭もある。部活動、クラブ活動は君たちがトップで引っ張る緊張感がある。そして昨年よりも、自身の進路のことをより深く考えることになる。やることは山のようにある。強いられる制約も多い環境の中ではあろうが、それでも「どうせ無理だから…」などと弱音を吐かずに、諦めずに取り組んでほしい。

例えどのような状況であろうとも、「たのしい学校」や「たのしくない学校」があるのではない。自らの置かれた環境がたのしいかたのしくないかを決めるのは自分自身の心だ。だったら「たのしい」を選んだほうが君たちの生活は充実するのではないか。そのために、君たちにできることは何か。そのために、君たちがやるべきことは何か。

いつもと違うこの状況下で、君たちが望む未来は君たち自身の手で切り拓くのだ。

“Your Action, Your Future”

いつもと違う2学期は、いつもと同じ忙しさになるはずだ。



Autumn

数日前のことです。とてもとてもきれいな夕焼けを見ました。ぐっと心の片隅を掴まれて、激しく引っ張られるような錯覚を感じました。

曇天の夏は終わろうとしていました。この日は昼過ぎからいくらかのまとまった雨に見舞われたものの、ちょうど日が落ちようとする少し前に小雨となり、ところどころに青空が垣間見えるようになっていました。私は、都内の幹線道路を西に向かっているところでした。

道の両側には所狭しと様々な形をした灰色のビルがそびえ立っており、左右の視野を制限していました。そしてまっすぐ西へと進む道路の正面にだけ、赤く、橙色の空が広がっていました。手前の空では、繊細な目をした雲全体が橙色の光を反射しており、奥の方の空では雲がところどころ切れた隙間から赤に近い橙色の強い光が降り注いでいました。ふと、信号をすぎると左側にビルがなくなり、南側の視界が突然開かれました。これまで見る事ができなかった南の空もちゃんと西の空につながっていて、グラデーションを形成していました。数粒の雨滴が落ちてきて、フロントガラスを音を立てて濡らしました。何故か心が悲鳴を上げた気がしました。

2017年9月

グラデーション

高2学年主任
杉野 荘介



その日の夜、インターネットでニュースを見ていると、「東京の空に大きな虹」という記事がありました。東京ではずっと雨が続けていたが、久しぶりに雨が上がって、夕方には東の空に大きく明瞭な虹が現れた、といったような内容だったと思います。私は「えっ」とひとり呟きました。あれほどまでに心を奪われた夕焼けの反対側の東の空には7色の虹が見えていたという事実。虹は太陽の反対側にしかできません。そこに水滴があることが必要ですが、当然その日の天候を考えればまさに条件を満たしていたといえるでしょう。理屈を考え、想像しさえすれば気づいただろうに、夕方の私は一度も東の空を見ることはなかった。

夕焼けと虹のどちらがきれい、どちらが貴重で、どちらが優れているということではありません。その日、きっと東に向

かって幹線道路を進んでいた人は、綺麗な虹をみていたのかもしれない。もしかしたら、あの攻撃的なまでに美しい夕陽を見ることなしに。「西の空と東の空は繋がっていて、夕焼けと虹はともに自らの役割を果たしながらそこに存在していた」という当たり前の事実が、どこか私の心と頭をかき回すのでした。

吉祥祭そして運動会。それまで全てをその一瞬のために準備してきて、その一瞬のためにぶつかり合ってきて、その一瞬のために努力を続けてきた、そんな大切な一瞬が集まった「本番」がやってきます。一生懸命向き合ってきた「しるし」は、どのような形であれ、そこに美しく残るはずで。最後の1週間を駆け抜けてください。



2017年11月

カナダ語学体験ツアー から得たもの

中3学年主任 明石 里恵



朝晩の冷え込みが進み、紅葉の美しい季節となりました。カナダから帰ってきたら、日本はすっかり秋になっていました。

カナダ語学体験ツアーはいかがでしたか。ファティマの教会でホストファミリーの到着を待っている時の落ち着かない姿、この上ない緊張感と不安でホームステイ先に向かっていく姿を見て、「みんなならできる。頑張る。」とウルウルしながら、送り出したことを思い出します。思い通りにいかないこともあったでしょうし、失敗したこともあったでしょう。ホームシックになって日本の家族を思い、寂しくなった人もいたことでしょう。いろいろなことを乗り越えて、数日後に皆さんに再会した時の表情は自信に満ちていました。

帰国後のアンケートで、笑顔、前向きな姿勢があれば、英語が通じなくてもコミュニケーションができると多くの人が書いていました。そして、英語を勉強したい、しなければと思った

人も多かったようです。また、カナダの人の優しさ、日本の良さ、家族のありがたさなど日本を離れ、家族と離れたからこそ気づけたことがあったようです。自分の家族、カナダのホストファミリー、友人、周りの人から多くのものを与えてもらい、支えてもらいました。今度は皆さんが誰かにお返しをする番です。今すぐにできなくても、大人になって昔の気持ちを思い出したときでも構いません。

さて、英語の授業では車イスプロテニスプレーヤーである国枝選手についての英文を読みました。彼はグランドスラムを達成し、パラリンピックでは金メダルを獲得したわけですが、並々ならぬ努力をしています。彼の強さにはいくつかの理由がありました。中でも私が感銘を受けたのは、“Instead of trying to beat his opponent, he tried to beat himself.”（試合の相手を打ち負かそうと思うのではなく、自分自身を打ち負かそうとした）という彼の考えです。何もかも自分がうまくいかないことを環境や周囲の人のせいにしてしまいがちですが、そうではない、自分が自分に限界を決めていたり、自分自身を甘やかしてしまっていたりするのかもしれないと改めて気づかされました。彼は車イステニスを多くの人に知ってもらいたいという使命を持ち、そのために試合で勝ち続けるのだと語っています。車イステニスを与えてくれたことを今度は自分が還元していこうと考えているのです。是非皆さん一人ひとりがこのツアーで得たことを学校生活で、身近なコミュニティの中で、先々はグローバルな世界の中で還元してくれることを願っています。



2020年12月

焦らず じっくりと

中1 学年主任 高野 良弘



6月末に発行した学年通信第1号で、「一斉登校が始まった今から、心機一転、先入観にとらわれることなく、ゼロの状態からあらためてお互いの関係を築き上げていきましょう」と呼びかけました。また、入学式で、在校生代表による「歓迎の言葉」の中に、「吉祥は一人ひとりが輝ける学校です。これから皆さんも自分の輝く場所を見つけ、お互いを照らし合い、自分の持つ輝きをより強くしていきましょう」という話もありました。

さて、そこから約半年が経ちましたが、お互いの関係や自分の輝く場所は少しずつ築けてきましたか？

もちろん、人間関係は急いで築く必要など全くありません。今年度は、学年全体で動くということが難しい状況です。例年と比べると、クラスの枠を超えた接点を築く機会にどうしても恵まれません。まだ、交流する機会のない同級生は沢山いるわけですね。いずれはLHRの時間に学年交流会などの行事も復活出来ることを期待していますし、中学2年に進級する際にはクラス替えもあります。6年間の吉祥生活は、今後も新たな出会いの連続のはずです。趣味や感性が近くて仲良くなる場合もあれば、逆にさまざまな感覚が違うからこそ関係が深まることもあるでしょう。焦らずじっくりと「生涯の友」との出会いの旅を続けていきましょう。

輝く場所、ということ、みんなの前に立って注目を集めて、というイメージで考えられがちですが、決してそういう意味では

ありません。みなさんの昼休みや休み時間の様子を見ていても、一目散にグリーンコートに駆け出し元気に走り回っている人たちもいれば、テラスなどで何人かの気の合う仲間たちと盛り上がっている人たち、一方で教室や図書館などで読書に没頭している人たちもいます。私には、そうした一人ひとりがみんな輝いて見えます。中学校の入学説明会などで、よく受験生の保護者から「吉祥は活発で元気な学校と聞きますが…」と話しかけられることがあります。私は、「そんなことはありませんよ。確かに元気いっぱい活発な生徒もいますが、おとなしく目立たないけれど地道に自分の道歩んでいる生徒も沢山います。そうしたさまざまな生徒同士が、お互いを認め合って尊重し合える多様性が吉祥の最大の特徴だと思います」と答えています。「互いの価値観を尊重しましょう」というのは、本校の校是の一つでもあります。中学1年という年齢は、異なるものへの理解や尊重が、まだ若干不足してしまうこともある時期かもしれません。そんなときに、改めてこの校是の一節を思い出し、自分に向けて語り聞かせて下さい。校是というのは入学時に完全に身につけているものではありません。吉祥生活のさまざまな機会を通じて、ときには失敗しながらも、じっくりと身につけていってほしいと思います。

最後に、以前の学年集会で、自宅に戻って制服を脱いだら、同時に一旦学校の枠組みからも抜け出して下さい、という話をしました。家で自分自身の時間はとれていますか？ ひとりで自分自身と向き合う機会はありますか？ 誰のためでもなく、自分のために、自分の好きなことをする時間はありますか？ 授業の予習・復習だけでも忙しい毎日だと思います。一方で、クラスやクラブのラインに多数の書き込みがあって、それを追っかけないといけないから大変、というような話も聞いたことがあります。それでは、みんなに付いていだけで、本当の自分を形成することにはつながりません。毎日とは言いませんが、週の中で何度かは、わずかな時間であったとしても、自分自身の時間を大切にしてほしいと思っています。

長かった2学期、人間関係で少し苦勞してしまった人、学習面でつまづいてしまった人、体調管理がうまくいかなかった人もいるかもしれません。でも、心配はいりません。まだまだ試行錯誤を繰り返す時期です。焦らずじっくりと、一步一步進んでいきましょう。みんなの吉祥生活は始まったばかりなのですから。

あわただしかった2学期が終わりました。

吉祥での吉祥祭・運動会・校外学習はいずれも2回目の体験で、皆さんは昨年よりも要領よく、スムーズな動きを見せていました。また、11月には弁論大会のクラス予選に取り組みました。夏休みの課題であったスピーチ原稿の作成では何をテーマに書くべきかで悩み、なかなか提出できない人もいたようです。いっぽう、夏休みに作成した原稿をわざわざ一から書き直して、クラス予選に臨んだ人も。残念ながら、ぼく自身は各クラス数人のスピーチしか聴くことができなかったのですが、その一つひとつが興味深いものでした。その中には、自分のいままでの経験や今のありようを素直に話し、クラスのみんなに理解や共感を促すようなスピーチをした人がいました。そのスピーチを終えた後のとても晴れやかな笑顔が、今でも印象に残っています。

2018年12月

富士山のように なろう

中2 学年主任 高野 弘





さて、年の瀬です。まもなく新年を迎えることとなります。皆さんには、この機会に自らの学習習慣を振り返ってみてほしいと思います。そのときに大切にしてほしいのが「富士山のようなになる」ということです。「富士山のようなになる」とは、どういうことなのでしょう？日本一？いいえ、ぼくが言いたいことは違います。どうせ目指すのなら、世界一を目指しましょう。ぼくが言いたいことは、「富士山のような姿になる」ということです。

林間学校を思い出して、富士山の美しい姿を思い浮かべてみてください。富士山が美しいのはその高い頂だけでなく、広い裾野があるからです。広い裾野があるからあの高く美しい頂が支えられるのです。みなさんにとって学びは、裾野をつくることだと考えてください。広い裾野がないと、高みに到達できません。そのため、今あるすべての授業を大切に、どんな分野に関してもどん欲に知識を求めてほしいと思います。ある特定の分野にだけやたらと詳しい、偏った知識ではなく、幅の広い知識を身につけることが大切です。

裾野を広げていくために大切なことは、役に立つとか立たないとかを考えず、知ることに対する情熱を持ち続けることだとぼくは思います。6月20日の学年集会で、ぼくはアップルの創業者スティーブ・ジョブズ氏による伝説的なスピーチについて話をしました。そこでは紹介できませんでしたが、大学の卒業生に向けたそのスピーチの中でジョブズ氏は、次のように述べます。以下はその要旨です。

私は大学を中退したが、その後何となく受講していたカリグラフィ（西洋の書道）の授業がマッキントッシュ（世界最初のパソコン）の美しいフォントをつくる上でとても役に立った。また、私は私がつくった会社であるアップルを解雇されたが、そのおかげでピクサーという会社（アニメーション制作会社『トイ・ストーリー』などで有名）に出会えた。つまり、何がどのように自分の未来につながるかはわからない。だから、何でもいから自分の直感を信じて好きなことに情熱を傾ける。それが未来につながる。

こんな感じのとても説得力のあるスピーチです。ぼくは時々これを聴いて勇気をもらっていますが、皆さんも YouTube で観てみてください。「人生で何が役に立つかはわからない」とよく言われますが、本当にそのとおりです。役に立つことは勉強するという人がいますが、そういう人は役に立たないと思う知識をまるで吸収できなくなります。もちろん、「役に立つ」という感覚が学びの意欲につながることは否定しません。しかし、

「役に立つ」かどうかの線引きをせずに、多くの知識を求めてほしいと思います。

もう一度、富士山の裾野を思い浮かべてみてください。そしてここでは、知識を雨や雪にたとえて考えてみましょう。富士山は広い裾野があるため、たくさんの雨や雪をキャッチすることができます。その山はだで吸収された地下水（知識）は、地下の水脈でつながっていきます。知識は、つながるものです。たとえば、皆さんが足和田山登山の時に登った三湖台からは、西湖・精進湖・本栖湖を見ることができます。この三つの湖面の海拔高度は、902m とほぼ同じです。（林間学校ガイドブック参照）。しかも、ほぼ同じ時期に増水と減水をおこすため、三つの湖は皆さんが三湖台から見下ろした青木ヶ原樹海の下の地下水脈でつながっているという説があります。つまり、一見すると無関係のような水脈（知識）も、実はどこかでつながっているかもしれない、ということです。

また、たくわえられた地下水（知識）は、どこかで湧きでできます。静岡県三島市には、柿田川という日本で一番短い一級河川（長さ約 1.2km）があります。水源は、柿田川公園内にある富士山の湧き水。湧水量は 1 日 100 万 m³（オリンピック競泳用プール 400 杯分）です。湧き水を水源とする柿田川は清流として知られ、水温や流量が年間を通してほぼ一定を保っているため、地域の人々に様々な恩恵を与えてきました。今皆さんがたくわえている知識も、いつかはこんなふうに豊かな湧き水となって現れ、皆さんの人生をうるおすはずですよ。

最近話題となっている哲学書『なぜ世界は存在しないのか』（マルクス・ガブリエル著、本講談社選書メチエ）という本の中で、ハムレット（シェークスピア悲劇の主人公）の次のような台詞が引用されていたので、最後に紹介したいと思います。「実際の人生には多くのことがある／きみの学校での知識が夢見ていたよりも」

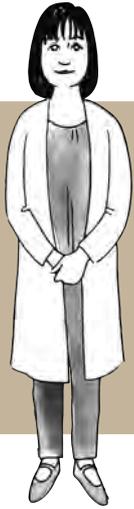
確かに、この世の中には、学校で学ぶこと以外にも大切なことはたくさんあります。ですから、教室では学べないことや、教科書には書いていないことを、読書やさまざまな体験を通じて皆さんに学んでほしいと思います。ただし、皆さんが今教室で学んでいることは、多くの智慧であふれていることも事実です。ハムレットも先ほどの台詞の後に、次のように述べているそうです。

「しかし学校での知識には多くのことがある／実際の人生では見られないほどの」





Winter



2021年1月

カレンダー

高1学年主任 小松 朋子

皆さんは、年末年始をどのように過ごしたでしょうか。私は実家が都内なので、特に帰省をすることもなく、ちょっと長い連休くらいの気持ちで、普段と変わらない生活をしていました。それでも、掃除をしたり、正月飾りを掛けたりして、新しいカレンダーを準備しました。

ここ数年、気に入って使っているのは、一週間で一枚めくるタイプの「人生はニャンとかなる！」という名前の卓上カレンダーです。「かわいい猫の写真」と「偉人の名言」がセットになっています。愛用しているのは、猫がとてもかわいいのもありますが、それにも増して「偉人の名言」が良いからです。まるで、私のことを知っていて、今の私に向けて言ってくれているのではないかと驚くくらい、適切な助言をくれます。2020年の最後のページは、12月27日から1月2日までの一週間でした。このページには、後ろ足で立ち、胸の前で前足を合わせて拝むようなポーズの、真剣な表情の猫の写真と、こんな名言が書かれていました。

“神頼みは最後に”

「神は行動しない者には決して手を差し伸べない（ソフォクレス）」という注釈がありました。多くの人が見る最後のページには、やはり「なるほど！」と思う事が書いてあるものです。「祈るだけでは願いは叶わない。まずは行動しなければ！」と、改めて認識させられました。昨年までは元旦に初詣に出かけ、神頼みをしていました。今年はカレンダーの助言のお陰で、神頼みをする前に「今できること、すべきこと」が少しですが実行できて、良い年末年始だったと思います。

最後の1ページが大いに気に入って、1月2日まで日付が書かれていることですっかり油断してしまい、2021年のカレンダーに交換したのは、1月3日でした。今年のカレンダーも構成は全く変わらず「猫の写真と名言」のセットです。最初のページはカレンダーの表紙のようなもの、最後のページを上回る名言が書かれているはずだと思っていたら、

“息抜きは豪快に”

と書かれていて、少しほっとしました。年の初めにどんな難題が課されるのかと、内心ドキドキしていましたから。もちろん、思い切り息抜きをするのが何より大事だという話ではありません。「遊ぶときには一心に遊べ。働くときは一切遊んではいけない。（第26代米国大統領セオドア・ルーズベルト）」という注釈がありました。メリハリが大事である、ONとOFFの切り替えを意識しようということでしょう。私は、「ONとOFFをどちらも充実させよう」ということだと解釈しました。

激動の2020年が終わり、新しい年になったものの、当分の間、かつての日常に戻ることはできそうにありません。しかし、憂いてばかりではなく、日々着実に進み、そして楽しむことも忘れずに過ごしていきたいものです。

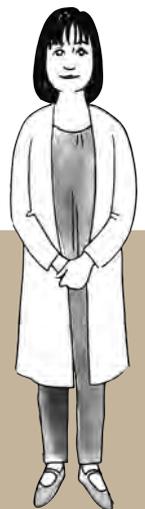
高校生活の三分の一が終了しました。早いですね。休校・遠隔授業から始まるという、今までに経験したことのない一年でした。まだ顔も名前もわからなかった皆さんに向けて、画面越しに授業をし、メールでやり取りするたびに、皆さんが中3のときに撮った写真と照らし合わせながら、あれこれ想像していた4月から、本当にあっという間の一年でした。

先日高校卒業式で、総代の生徒が「クラブの春と夏の大会が中止となり、仲間と乗り越えてきた苦しい練習の成果を発揮する場がなくなり、有終の美を飾ることなく引退となったことが今でも心残り」と答辞の中で言っていました。前例のない、予想もしなかった出来事に、どうすることもできなかったのだらうと思います。今も、新型コロナウイルス感染症は収束せず、例年実施されていた色々な行事などが、4月から同じようにできるのかはわかりません。しかし、わからないからと言って足踏みしては、二度とない高校二年生という青春のときが、さらりと過ぎてしまうかもしれません。それではあま

2021年3月

心残りは 次に活かそう

高1学年主任 小松 朋子



りにも勿体ないですよ。

3月3日、一年を通して取り組んできた「SDGs プレゼン」の決勝が行われましたが、計画では、決勝をもう少し早い時期に実施して、その日は「学年交流会」をしようと考えていました。学年の最後の LHR は「みんなの企画で、みんなで一緒に何かをしたい」と、日程を組んでいたのですが、二度の休校で惜しくも実現できませんでした。楽しみにしていた人、やってみたいことがあった人も大勢いたと思います。「例年通り」でない状況だからこそ、アイデアを活かし、新しいことにチャレンジするチャンスだったかもしれません。そう思うと、苦渋の決断だったとはいえ、心残りです。

4月からいよいよ高校2年生、学校を牽引していく立場になります。今年一年、何となく不完全燃焼だった皆さん、四月からは、行事に限らず何事も、失敗を恐れず、ひるまず、精一杯やり切って、心残りのないようにしたいですね。



例年と変わることなく桜の開花の便りがあり、夜明けの時間が徐々に早くなっているのもいつも通りの春なのに、生徒のいないあまりにも静かな校舎に入るとその異常さが実感され、1ヶ月が経とうとする今も慣れることができません。そのような中でも3月16日には258名の卒業生が巣立っていきました。式の中で在校生総代の言葉を贈ることはできませんでしたが、卒業生への感謝をとて丁寧に表示してくれたもので、活字にして伝えることになっています。卒業生総代の答辞は力強く立派でしたが、何とも言えない寂しさが伝わるものでした。そして退場する際に最後に贈る吹奏楽部のあの演奏が、旅立ちに当たって卒業生の背中を明るく押すものだったということにも改めて気づかされました。吹奏楽部の皆さんも、心を込めて演奏したかったことでしょう。精一杯の拍手を贈りましたがやはり切なさが残ります。最後の登校日に慌てて作った高2からの卒業生へのメッセージ動画は無事に全クラスで見てもらうことができ、「感動しました。後輩たちにありがとうと伝えて下さい。」とわざわざお礼の挨拶に来てくれた生徒もいました。卒業生たちの幸せを心から祈ります。

さて、学校の中心学年としての1年が終わりました。体調管理に悩み勉強面で苦勞する姿も見られました。先を見通し、誠



2020年3月

一日一日を大切に

高2 学年主任 塩澤 知美



実に実行していくことの難しさも実感したことでしょう。一方で行事に取り組む中で仲間に支えられていることに気づき、充実感も味わえたことと思います。

2学期には初めての取り組みとして模擬国連にも挑戦しましたので、自分のことだけでなく国や世界の動きにも目を向けられるようになったのではないのでしょうか。新型コロナウイルスの問題が突きつけてきたのは、我々人間のあり方に他なりません。耳を疑うような詐欺やデマについての報道がなされていますが、弱い命を如何にして守るのか、想定外のことに對してどう柔軟に対応するのか、国を超えて一人ひとりが向き合わなければならないことなのでしょう。クラブ活動もない今、受験勉強だけでなく問題意識をもって読書や情報収集を行い思考を深めてもらいたいと思います。どうか、一日一日を大切に過ごして下さい。

【保護者の皆様へ】

1年間温かく見守って下さりありがとうございました。さまざまな行事で生徒たちが輝く場面に立ち会える喜びを、しみじみと味わった1年となりました。学年スタッフ一同感謝申し上げます。春に予定されていたさまざまな行事が中止となり、心を痛めている方もいらっしゃると思います。3学期は定期考査も実施できませんでしたので、学習面につきましては4月からの授業の中で力を把握し、フォローしていくこととなります。



2019年3月

照明

高3学年主任

杉野 荘介

吉祥女子中学・高等学校での6年間が終わろうとしています。

何か共通の目標に向かって大勢の人間がそれぞれに良さを出し合い、時にはぶつかり、時には遠慮しながら、しかし一体となって、一つの事柄を成し遂げてきた吉祥での生活。きっと、みなさんはこの6年間を必死に生きてきたはずです。喜びも、悲しみも、怒りも、切なさも、悔しさも、やるせなさも、日常の一部として抱えながら。志を持ち、夢を持ち、努力を重ねてきたのだと思います。本気の行動によって構成された経験は、自分自身を助けてくれる。これまでも、これから先も。

昨日の夕方、下校時間を過ぎた後、僕は5号館に足を運びました。誰もいない。いるのは自分だけでした。階段を下りながら体育館の外壁の窓を見ると、夕日を反射してるはずなのに、青緑色に輝いていました。フロアを進むと、消し忘れたと思われる照明がいくつかの場所で、誰もいない廊下を照らしていました。ロッカーの陰には、漆黒の空気が漂っていました。

僕は、いくつかの教室のドアをそっと開き、最後の半年間のしるしを探し求めました。掲示物や、ホワイトボードに残るイラスト。廊下を通ってきたものなのか、窓ガラスを必死に通り抜けてきたものなのか、弱々しい夕陽が整然と並んだ机を照らしていました。窓にクラス旗が掲げられている教室もありました。僕は、カメラを取り出してホワイトボードに描かれたイラストをいくつかの角度で撮影し、その後、教室全体が捉えられるようにカメラを回しながら、動画を撮りました。

しかし、「ダメだ!」と思った。ここにあるはずの空気感を切り取るという目的において、まるで全然できていなかった。いくら光の加減や向きを調整しても、ここにあるはずの大切なものが決定的に表現できていなかった。

この学年には、不思議な一体感がありました。爆発的にただ盛り上がるというのではなく、理性を持って、互いを尊重し、自らもその空気を作る確かな要素であることをそれぞれが自覚しているような一体感。そしてそこには、目に見えない普遍的な価値観がありました。人と比べない、人の失敗を笑わない、多様性など、言い方はいろいろある。でもおそらく、みなさんはその目に見えない空気の中で、自分らしさを最高の財産ととらえ、誇りに思ってくれた。誰にでも、より良い未来を掴み取るために、もがきながらも前進する権利があるということを、たぶん理解してくれた。

これから、みなさんは、はっきりとした「ものさし」がない



世界に足を踏み入れます。何が正しく、何が正しくないのか、自分で考え、選びとらなくてはいけない世界です。混沌とした社会は、もう目の前すぐのところまで広がっている。口を開けてみなさんのことを飲み込もうとしている。油断すると、間違っただけで飲み込まれてしまうことだってあるかもしれない。でも、その混沌とした社会においては、これまでとは違う種類の、多様な出会いがあると思います。沢山の人に出会って、世界の広さを感じてください。いろいろな人の声を聞いてください。地の果ての風景を、目に焼き付けてください。その上で、自分の本当に大事なものが何であるか考えて、考えて、そして、自分の中にここだけは譲れないという優先順位を導き出してください。それを「ものさし」あるいは「価値観」と言います。

いろいろな環境で、さまざまな人と話をして、自分の内面に変化が訪れることもあるかもしれません。一方で、この吉祥で過ごした6年間の間に、みなさんが共通して触れてきた「価値観」がある。それは普遍的なもので、道なき道を進む皆さんの足元を、ぼんやりとではあっても常に静かに照らしてくれるでしょう。そして、何よりここで時間と空間を共有した仲間たちは、皆さんにとっての最高の財産で、永続的な理解者となります。

みなさんには、人生の素晴らしさを知ってもらいたいと願っています。そして人生の残酷さを知ってもらいたい、とも思います。これからの人生、すべて連勝が続くということはありません。同時に、連敗ということもありえない。波があって、浮き沈みがあるのが人生。そんな人生の中で想いを叶えるためには、その可能性を少しでも高めるためには、情熱と志を持たなくてはならない。自分を知って行動しなくてはならない。想像して準備をしなければいけない。そして十分すぎるほどに、自分自身を信じてあげなくてはならない。時に逆風の中では、しなやかに身を反らせて、逆風をやり過ごすことも必要だ。

何が大切なのか、自分の頭で考えてください。何が自分にとって、社会にとって重要なことなのか考えてください。自分の言葉で何かを語りかけてください。そしてどこかで爪痕を残してください。

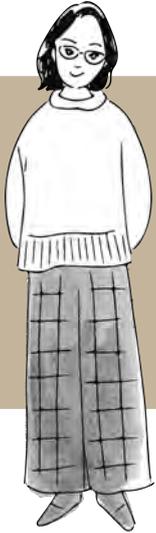
みなさんは明日、卒業式を迎えます。

卒業というのは別れであり、旅立ちでもあります。悲しくも嬉しく、そしておめでとうの晴れの日です。この251人の生徒と11人の学年教員が再び、同じ時間に同じ場所に集うことは、もうおそろくない。そうしたいけれども、たぶん、ない。みんな新しい場所で新しい居場所を作って、必死に毎日を、日常を生きていくから。自分の「ものさし」を持ちながら。「タイミング」はなかなか合わない。でも「タイミング」はそれぞれ違っていい。僕たちはここにいる。疲れたり、迷ったりしたら、吉祥に戻って来ればいい。

これから先には、まだ想像もできないような舞台が、世界中に存在しています。僕たち教員の知らない世界だってたくさんある。視野を広く持ち、想像してください。あなたにしかできない、使命感や達成感に打ち震えることができるようなステージは、この先に必ずある。みんなは、それぞれのタイミングで、

それぞれのステージの上に立つ。これから先のいつの日か、自分だけにしかできない、自分らしさを発揮できるステージに立って、照明を一身に浴びる。絶対に。それぞれが。

卒業おめでとう。そして、心から、ありがとう。



2020年3月

Bon Voyage!

高3 学年主任
山根 晶子

今、私の手元にあるのは、中1のときの皆さんの顔写真です。6年前はおでこを出している人と眼鏡をかけている人が多いですね。髪は伸びた人もいれば切った人も。顔も伸びた人がいれば丸くなった人も。机を整理すると他にもいろいろ懐かしいものが出てきて、一人で吹き出したり絶叫したりしています。

思いがけずコロナの襲撃に会い、皆さんと名残を惜しむ時間がとれなくなってしまったことは本当に悲しいです。2020年3月16日という日が、皆さんの吉祥生としての最後の登校日となってしまいました。この場を借りて、卒業してゆく皆さんに饞の言葉を贈ります。

皆さんがこの吉祥に入学したとき、いろいろな未来を思い描いていたことでしょうか。夢と希望に膨らんだ風船がしぼまないよう、あるいはもっと大きく膨らませられるよう、私たち教員は、皆さんの充実した学校生活のために、どんな手助けができるのかを考えてきました。ともすれば、手助けではなくお節介になりがちだったかもしれません。私たちがしてきたことが常に正解だったわけでもないと思います。それでも皆さんは、と

きに素直に、ときに反発しながらも、私たちの声かけに応じてくれました。そんな皆さんと一緒にこの学年で過ごせた6年間は、本当に楽しくて、いっぱい笑っていっぱい嬉し涙も流しました。心から感謝しています。それとともに謝らなくてはいけないことが1つ。

「獅子の子落とし」ということわざがあります。敢えて子どもに試練を与えて成長を促すことへの賛否はあるようですが、子どもを自立させるためには、この手法もときには必要だったのではないかと今さらのように反省しています。私には皆さんを千尋の谷に突き落とすことができませんでした。もし谷に落ちたとしても、実際のライオンのお母さんのように皆さんを拾いに行っていたような気がします。吉祥という狭い世界を出て谷に突き落とされたとき、自力で這い上がってこられる力を皆さんにつけてあげられたのかどうか。皆さんは優しいし思いやりもある。でも世間が皆さんに優しいとは限らないし、むしろ優しさが仇になったり、谷に突き落とされてばかりだったりするかもしれません。そんな逆境に耐えられるだけの逞しさを身につけさせられなかったのではと心配しています。しかし、ここまできて今さら突き落としたりすることはありません。もし谷に落ちて傷だらけになったらここへ来てください。優しく薬を塗ってあげます。軟膏を準備して皆さんが遊びに来てくれるのを待っています。皆さんのこれからの人生が、この6年間で上回るほどキラキラ輝くことを祈っています。

【保護者の皆様へ】

お嬢様のご卒業おめでとうございます。この晴れの日を楽しみにされていた保護者の皆様には、卒業式にご参列いただけなかったことを誠に残念に心苦しく思っております。お嬢様方の門出にふさわしい場となりますよう、教員一同心をこめて送り出したいと存じます。6年間のご支援、ご協力に感謝申し上げます。最後のご挨拶とさせていただきます。





表紙・挿し絵

香取 亜美

吉祥女子高等学校 芸術コース卒業後、武蔵野美術大学 工芸工業デザイン科卒業、イラスト制作会社での勤務を経て、2016年よりフリーランスのイラストレーターとして活動。



@ami_katori



吉祥女子中学・高等学校

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町 4-12-20

TEL : 0422 (22) 8117 FAX : 0422 (22) 9752

〈ホームページ〉 <https://www.kichijo-joshi.jp/>